



# 自民党・無所属 大阪府議団だより



## かず ゆき ヌイ和幸議員が 府議会で一般質問

奴井和幸議員は12月14日に開かれた府議会の本会議で一般質問に立ち、幼児教育の充実、地籍調査の促進、強度行動障がい者支援についてなどを質問しました。

プロフィール 堺市北区選出

昭和40年8月30日生まれ。O型・乙女座。元衆議院議員左藤恵秘書。堺市議会議員。大阪府議会議員5期目。同議会環境農林水産常任委員、大阪府議会副議長。(公財)日本少年野球連盟大阪南支部顧問。金岡ボーイズ顧問。熊野ライオンズ団長。阪南野球協会会長。大阪府ボウリング連盟副会長。堺高石青年会議所シニア会員。防火管理者資格取得。日本体育協会公認スポーツリーダー資格取得。趣味は野球、ゴルフ、ボウリング。  
<http://nui-kazuyuki.com/> E-mail:[info@nui-kazuyuki.com](mailto:info@nui-kazuyuki.com)

### 幼児教育の充実



無償化が実現しても教育の質を守るための支援は、しっかり継続すべき

#### 預かり保育で 待機児童の解消にも大きく貢献 私立幼稚園の振興について

**Q. 奴井議員** 10月(2019年)から国の政策として「幼児教育の無償化」が加速する。私立幼稚園の教育の質を守るための支援は、無償化が実現してもしっかり続けていかなければならない。府における預かり保育補助金は国の基準補助額を下回っているが、国基準への引き上げが必要ではないか。幼児教育の充実など私立幼稚園への支援に今後どのように取り組んでいくのか。

**A. 教育長** 4月(2018年)に幼児教育センターを開設、2022年までに500名の幼児教育アドバイザーの育成等、教育・保育の質の向上を図っていきます。私立幼稚園への支援は幼稚園教諭の処遇改善をした園への補助を実施し、預かり保育には今年度から補助制度を充実させました。保育の無償化にあたっては、適切に対応していきます。

子どもの幸せな人生の実現につながる

“幼児教育の充実”に公的支援は不可欠。

子どもの貧困率が大阪府内でも約15%と高い中、貧困の連鎖を断ち切るためにも、幼児教育の充実が重要。無償化により経済状況に関わらず、教育を受ける機会が保証されるこの機を逃さず、教育の質の向上を一層図っていくべき。大阪の未来を支える人材を育てていくため公的支援は不可欠である。

府として  
最大限の  
努力を。

### 地籍調査の促進

府内全ての市町村が調査に着手するよう、働きかけを!



#### 地籍調査で 災害に強いまちづくり

**Q. 奴井議員** 地籍調査(\*)は災害に対する備えのひとつとして、非常に有効な事業である。私自身、土地家屋調査士の話も参考に地元・堺市に地籍調査推進の重要性を説き、三宝地区で基礎調査となる国の直轄調査が実施されることになったが、府内市町村の多くは取り組みが進んでいない。南海トラフ巨大地震の発生も想定される中、地籍調査の促進が必要だ。

(※地籍調査…市町村などが事業主体となり土地の所有者や境界、面積等を調査するもの)

**A. 環境農林水産部長** 全市町村での着手を目標とする「大阪府地籍調査促進戦略」(平成17年度)を策定し、事業実施に向けた支援や平成27年度からは地震対策として予算を拡充し事業推進等を行っています。国の計画を踏まえ新たな府の促進戦略を平成31年度中に策定し、本事業を推進してまいります。

奴井議員の  
要望 寝屋川市のように、土地活用の観点からも  
非常に有効な地籍調査の推進を要望

地籍調査を積極的に実施している寝屋川市では、土地の境界が明確にされたことで民間開発が進み、土地の流動化が図られたと聞く。土地活用の観点からも非常に有効な事業であり、府がコーディネート役となり全ての市町村が着手するよう、事業の推進を要望する。

### 奴井議員が問う

## 強度行動障がい者への支援

### 民間の受け入れ施設の利用状況、及び今後の支援について

**Q. 奴井議員** 「いぶき」の定員には限りがあり、全ての強度行動障がい者の方々を支えていくには、民間の入所施設やグループホームも含めた総合的な支援が必要。強度行動障がい者にかかる民間の施設の利用状況等はどうか。また重度の方への今後の効果的な支援は。

**A. 福祉部長** 府内に7,500人を超える強度行動障がい者がおられ(平成28年調査)、入所施設とグループホームに約47%、在宅は約51%となっています。府・市町村・民間事業者のそれぞれが密に連携し効果的な支援のあり方について検討を進め、夏を目途に素案を整理。「いぶき」については、最重度の方々の地域移行に向けた取り組みを進めてまいります。

## 強度行動障がい者が安心して暮らせる、府の受け入れ施設へ取り組みは?

**Q. 奴井議員** 強度行動障がい者(\*)の支援に特化した施設、府立砂川厚生福祉センター「いぶき」は入所待機が常態化しており、現在定員40人という規模で、その求められる役割を果たし得ているのか心配だ。「いぶき」における取り組みについて問う。

(※「強度行動障がい」とは、自分を傷つける、他人を傷つけたり物を壊す等の行動が非常に高い頻度で起こっている状態で特別に配慮された支援が必要であり、府内にも多くの強度行動障がい者の方が暮らしている。)

**A. 福祉部長** 「いぶき」では、強度行動障がいのある利用者の障がい特性に応じて、時間や空間をわけるなど個々に配慮した支援を民間施設よりも手厚い人員体制で行っております。また「いぶき」を中核に民間支援事業所向けの研修や改修費用の助成、地域における支援体制整備強化のための様々な取り組み等、進めています。